

硬性バイオプシー鉗子

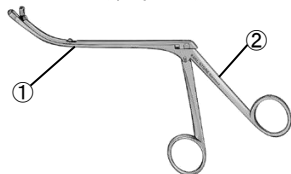
【形状・構造及び原理等】

※代表的なタイプを下記に示す。

＜タイプ１＞



＜タイプ２＞



＜タイプ３＞



ルアーロック付クリーニングアダプター



番号	名称	機能及び動作
①	シース※	先端部で病理診断用の標本を採取する。ルアーロック付クリーニングアダプターが付いているタイプもある。
②	ハンドル	ハンドル開閉操作により、シース先端部を開閉する。シースと取り外しができるタイプもある。

※血液・体液・粘膜等に直接あるいは間接的に接触する部分

＜原材料＞

シース：ステンレス鋼、シリコーン

【使用目的又は効果】

本品は、専用の内視鏡とともに用いる内視鏡用器具であり、内視鏡検査時に、組織学的・病理学的診断用の標本を採取するために用いる。

【使用方法等】

- 内視鏡のワーキングチャンネルまたは内視鏡に沿わせて腔内に本品を挿入する。
- ハンドル操作で先端を開き組織を採取する。
- 採取した組織を保持したまま本品をワーキングチャンネルまたは腔内から引き抜く。

＊＊【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

- 組織・粘膜を傷つける恐れがあるため、挿入部に傷、めくれ等がなく、滑らかであることを必ず確認すること。
- 破損等の原因となるため、本品を超音波洗浄器にかけないこと。

- 滅菌は常に同一の方法で行うこと。異なる滅菌方法を実施すると、構造材に負担をかけ本品の劣化・破損を招き、故障につながる恐れがある。
- 破損、曲がりの原因になり得るので使用時に必要以上の力を加えないこと。
- 使用後は、付着している血液、体液、組織液及び薬品等が乾燥しないように、直ちに洗浄液等に浸漬すること。
- 塩素系及びヨウ素の消毒剤は腐食の原因になるので、使用を避けること。万が一付着した場合は水洗いすること。

【保管方法及び有効期間等】

- 保管の際は、洗浄をした後、腐食を防ぐために保管期間の長短に係わらず必ず乾燥をすること。
- 滅菌済のものを保管の際は、再感染を防止するために清潔な場所に保管するとともに、有効保管期間の管理をすること。

＊＊【保守・点検に係る事項】

- しばらく使用しなかった後、再使用する時は、使用前に必ず本品が正常かつ安全に作動することを確認すること。
- 使用前に動作及び外観に異常がないことを確認すること。（特に体内に入る部分及び可動部分については入念に確認すること。）
- 使用後は、速やかに血液、体液、組織等の汚物を除去し、洗浄すること。
- 金属たわし、クレンザー（磨き粉）等は、器具の表面が破損するので汚染物除去及び洗浄時に使用しないこと。
- 付着物は修復不能な破損の原因になるので、器具は使用後、速やかに洗浄の準備をすること。
 - 内視鏡のプログラムが設定されている自動器具洗浄器を使用し、管腔を有する器具は専用洗浄チューブを接続して使用すること。
 - 適切なラックを使用し、他の器具と重なり合わないように入れること。（他の器具と重なり合うことにより破損の原因となり、また、重なっている部分で洗浄効果が減衰する。）
 - 器具の接続部を開放し、ストップコックやシーリングを分解してラックに入れること。
 - 洗浄剤や水質によっても製品にダメージを与える場合があり、器具に変質等が生じた場合、直ちに自動洗浄器の使用を中止し、洗浄剤、水質の確認を行うこと。
- 洗浄方法
 - 自動洗浄器
 - 内視鏡のプログラムが設定されている自動器具洗浄器を使用し、管腔を有する器具は専用洗浄チューブを接続して使用すること。
 - 適切なラックを使用し、他の器具と重なり合わないように入れること。（他の器具と重なり合うことにより破損の原因となり、また、重なっている部分で洗浄効果が減衰する。）
 - 器具の接続部を開放し、ストップコックやシーリングを分解してラックに入れること。
 - 洗浄剤や水質によっても製品にダメージを与える場合があり、器具に変質等が生じた場合、直ちに自動洗浄器の使用を中止し、洗浄剤、水質の確認を行うこと。
 - マニュアル洗浄
 - 洗浄剤及び化学消毒剤を使ってブラッシング及び浸漬等により手洗い洗浄を行なう。
 - 感染のリスクを防止するため、手洗い洗浄時には手袋・防水エプロン・ゴーグル等を必ず使用すること。

- ③ 管腔内を洗浄するため適切なブラシやクリーニングピストルを準備すること。
- ④ 洗浄、浸漬用にフタ付きで水きり用の内かごが付いている容器を準備すること。
- ⑤ ルアーロック付クリーニングアダプターがある場合、クリーニングアダプターを使用する。
- ⑥ 洗浄手順

1. ストップコックやシーリング等、器具の接続部をすべて分解する。
2. 専用容器に準備した洗浄溶液に器具を浸漬する。
水温は43℃前後(暖かいと感じる温度)が適温である。
薬剤による器具の破損の可能性がある為、溶液には60分以上浸漬したままにしないこと。
3. スポンジで全ての外表面を注意深く清掃する。
4. 管腔内は適切なブラシやクリーニングピストルを用いて洗浄する。
5. 純水で時間をかけて十分な濯ぎを行う。
6. ホコリが出ないやわらかい布や圧縮空気で乾燥させる。

7. 洗浄後の器具の点検とお手入れ

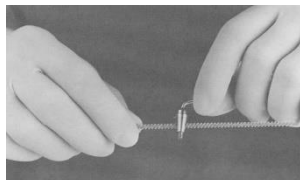
- (1) 外観の目視(特に体内に入る部分は入念に)確認、可動部の機能確認を行うこと。
- (2) ストップコックの接触面に専用グリースを必ず塗布すること。
- (3) 鉗子のジョウ等すべての可動部分には、滅菌による熱損傷を防止する為、専用のオイルを必ず塗布(オートクレーブ滅菌のみ有効)すること。

8. 洗浄剤

- (1) 材質にアルミニウム、真鍮を使用している製品にはアルカリ性、酸性洗浄剤又は化学消毒剤は使用しないこと。
(材質に影響を与え、機械を破損させる可能性が高い。)
- (2) その他の製品をアルカリ性、酸性洗浄剤又は化学消毒剤で洗浄する場合には、洗浄剤又は消毒剤の残留物が残らないように純水にて十分に濯ぎを行うこと。

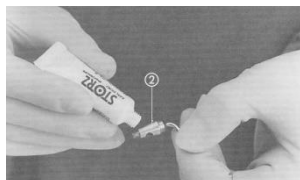
9. ストップコックの分解と洗浄

- (1) スポンジで全ての外表面を清掃する。
- (2) ストップコックを開位置(コックプラグはノズルに平行)にセットし、水で洗い流す。必ず清浄な水が先端から流れ出るまで洗う。
- (3) ストップコックのキャップをゆるめ、コックプラグを外す。
- (4) ストップコックを分解
洗浄し、ブラシを使って
シースの管腔とコーンを
清掃し、超音波洗浄して
から水洗い後、圧縮空気
で乾かす。



- (5) 軟質ブラシを使ってチャンネルの管腔を清掃し、超音波洗浄してから水洗い後、圧縮空気で乾かす。
- (6) ストップコックの接触面に薄くグリース(ストップコック専用)を塗布する。

注) グリースは、金属表面を滑らかにするだけでなく、リークを防止する役目があるが、オイルは、密閉剤として適さない。



10. 使用前に必ず下記の何れかの方法で滅菌又は消毒を行うこと。

注1: 滅菌前に器具を洗浄し、良く乾燥してから滅菌を行うこと。

注2: ラチェット付器具は開放又は1クリック状態にて滅菌すること。
(熱膨張により破損する可能性がある。)

(1) エチレンオキシドガス滅菌方法

本品を滅菌ケース又はトレーに収納し、滅菌包材で包んだ上、エチレンオキシドガス滅菌を行う。

<滅菌条件①>

- ・ガス混合物 : エチレンオキシド 100%
- ・ガス濃度 : 725±30mg/L
- ・温度 : 55℃

・湿度 : ≥70%RH

・圧力 : 0.09MPa

・時間 : 1~2 時間(滅菌機材による)

<滅菌条件②>

・ガス濃度 : 600~700mg/L

・温度 : 40~60℃

・湿度 : 50~60%RH

・圧力 : 0.1MPa

・時間 : 3~6 時間

<ガス抜去方法>

51~59℃で12 時間のエアレーションを行う。

(推奨 55℃で12 時間)

(2) オートクレーブ滅菌方法

本品を専用滅菌ケース又はトレーに収納し、滅菌包材で包んだ上、オートクレーブ滅菌を行う。

<滅菌条件>

・温度 : 134~137℃

・時間 : 4~18 分間

※真空式高圧蒸気滅菌(pre-high vacuum)方式のオートクレーブを推奨する。

※オートクレーブ滅菌を行う際に金属容器を使用している場合は、本品と金属部を直接触れないよう注意すること。

(3) プラズマ滅菌(販売名「ステラッド100S、NX又は100NX」)

本品を専用滅菌ケース又はトレーに収納し、滅菌包材で包んだ上、プラズマ滅菌を行う。

<滅菌条件>

・温度 : 約45~55℃(機種による)

・湿度 : 約10%RH

・時間 : 28~105 分(機種による)

(4) 薬液消毒方法

容器を2個用意し、一方には薬液を他方には滅菌水を入れる。薬液に30分浸した後、本品を滅菌水に移し、約5分間浸す。

<消毒条件>

・使用薬液 : 2%グルタールアルデヒド

※薬液消毒の場合、必ず、薬剤製造業者の指示に従うこと。

また、本品を60分以上液体に浸漬させたままにしないこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者: カールストルツ・エンドスコープ・ジャパン株式会社

TEL : 03-6380-8622

製造業者: KARL STORZ SE & Co. KG (カールストルツ社)

国名: Germany

添付文書番号 : KSTJ - 389